

守れ！9条

こんにちは！日本共産党の

大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

2006年11月1日

〒319-1112

東海村村松 2401-2

oona_toukai@yahoo.co.jp

電話・fax 029-284-0761

出直してよ！障害者自立支援法

——— 障害者ら15000人集う ———

「出直せ支援法！ 私たちぬきに私たちのことを決めないで」。官庁街に障害者や家族、関係者ら15,000人の声がこだまします。東京・千代田区の日比谷野外音楽堂やその周辺で、31日、「出直してよ！ 『障害者自立支援法』10・31大フォーラム」が開かれました。障害者分野の集会では過去最大規模。応益負担「中止」を盛りこんだアピールを採択し、厚生労働省などに申し入れました。

主催は、全日本ろうあ連盟、日本障害者協議会、障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動実行委員会などで作る同フォーラム実行委員会。

自立支援法では、障害者福祉サービスに原則一割の応益負担を求め、深刻な被害が出ています。集会では「サービスを受けなければ普通に暮らせない障害者が（原則1割の）利用料を払うのは変。退所や利用回数を減らした人が相次いでいる」（滋賀県手をつなぐ育成会）、「ガイドヘルパーを利用して外出するのも懐具合と相談しなければならないなんて、許されない。1割負担は撤廃すべき」（日本盲人会連合）などの告発が相次ぎました。

政党シンポジウムでは、日本共産党、民主党、社民党、公明党の各議員が参加。共産党の小池晃参院議員は、応益負担の被害に言及し「自立支援法の見直しは緊急・切実な課題。臨時国会で集中審議をおこなうべきだ」と強調。「応益負担をやめるのに必要な国の予算は430億円。米軍基地再編費用の70分の1にすぎない。応益負担を撤回し障害者福祉を充実させる予算は十分確保できる」と訴えると大きな拍手がわき起こりました。



（写真）障害者から医療・福祉が奪われている現状を話し、障害者自立支援法の出直しを訴える障害者団体 = 31日、東京・千代田区

記事・写真、しんぶん赤旗日刊11.1付

京都府宮津市から仲間や施設職員六人でやってきた男性(42)。作業所では、利用料負担を理由に退所した人がいます。「働くのにお金を払うなんておかしい。(応益負担は)見直してほしい」と力を込め、集会後デモ行進しました。 **東海村からも参加しています。**

大学合格数競わせる

未履修問題の背景追及

衆院特委で高橋議員

高校の必修科目の未履修問題について、日本共産党の高橋千鶴子議員は31日の衆院教育基本法特別委員会で教育行政のあり方をたどしました。高橋氏は問題の背景に政府・教育委員会が数値目標で受験競争をあおってきたことがあると指摘し、「行き過ぎた競争は考え直すべきだ」と批判しました。

高橋氏は未履修のある高校の99%が、教育委員会に虚偽の報告をしていたことを示し、「これほど全体的にやられていたということは構造的な問題だ」と指摘。兵庫、熊本など未履修問題が過去にもあったことにふれ「こうした事件が教訓になっていないならば、文科省の責任ではないか」と追及しました。

伊吹文明文科相は「先生のおしかりは甘受しなければならない」と答弁。文科省の銭谷真美初等中等教育局長は「(2003年の)学校週五日制で(教育課程が)窮屈になったのが原因という見方があるが、同時に必修単位を減らしており、そのことは直接にはあたらない」と弁明しました。

高橋氏は文科省が近年、学校に数値目標を導入・奨励している問題を指摘。広島県教育委員会が公立高校に「広島大学の合格者数20名以上」などの合格者数の目標をもたせて、競争させている実例を示しました。

伊吹文科相は「高校教育が予備校化しているのはゆゆしき事態だ」と認めつつ「目標をつくって競争しなければ効率化や努力は生じない」と数値目標による競争に固執しました。

写真・記事しんぶん赤旗日刊11・1付



(写真) 質問する高橋千鶴子議員 = 31日、衆院教育基本法特別委